

# 新任保姆の感想を聞く

目白幼稚園 和 田 實

昭和六年度も愈終りを告げて、先月の未には各所の保姆養成所から、新任の保姆さんが、所々の幼稚園に赴任されたことせう。今頃は所々の幼稚園に於て、是等の新任の保姆さんが、在學中の理想を實現せんとして鋭意努力を勵まれて居られるに相違ない。そして、理想と現實との間に、斯くも大きな相違があるかと云ふことに就いて、始めて、體得されるものがあつたらうと想像される。手鹽に掛けて御世話した新任保姆さんが、就任後、始めて來られた時、就職以來の感想に就いて聞くことは、中々興味もあり、参考にもなり、得る所の割合に多いものである。今、是等に關する私の経験に就いて、少し述べさせて頂きませう。

## 新任保姆甲の話

私の赴任した幼稚園は村落の小さな私立の幼稚園であります。子供の數は二十人少し、小さな町の端に位置して島

の中にボツリと建てられ、隣家と云ふても、二三丁の道を歩まねばならぬ位で、勿論、聲など聞えませんが。園舎は十五坪ばかりの遊戯室に六坪の保育室で、外に三疊の疊のある部屋と玄關と臺所と便所とあります。此處に、私は唯一人宿り込んで子供の世話をするのです。始めて宿つた夜は餘りの静かさに、寧ろ興奮して能く寝られませんでした。夫れで、朝は早く起きて、掃除其他を済ませ、身仕舞をして、子供の來るのを待ちました。頃がて、九時近くなつた頃に、「先生お早う」と大きな聲で、元氣よく入つて來る子供がありました。續いて「お早う、お早う」と云ふ聲が同時に重なつて聞えました。私は心から氣も浮き立つて、「お早う御座います」と満身の愛撫の心持で、相好崩して迎へました。そして、色々話し掛けて見ました。所が子供はきよとんとした顔付で、「何んだ、新奇の先生か、まだ類

付合はしねえぞ」と云ふ様な素振で、返事もせずに向ふの方へ行つて仕舞ひました。唯流石に、女の子の或ものが、そばに寄つて来て「先生！先生のの家何處？」などと聞くものがありました。之に力を得て、先づ女の子と仲好となりました。スルト、向ふの方で喧嘩が始まりました。之をさいばんして見ると、滑り臺の順序を魁しようとする争ひでした。之を訂して、ヤレ、一段落と思ふと、後の方で女の子のけたゝましい泣き聲が響きました。何うしたかと思つたら、男の亂暴ものが、何か氣に入らぬとて、打つたのでした。斯う云ふ様にして、最初の一日は殆んど喧嘩の仲裁で日を暮らしました。次の日も又其次の日も大體斯様の始末で、幼稚園は喧嘩と打ち合、引き搔き合の中に、一日々を送つて行くに過ぎませんでした。此間に唱歌を教へたり遊戯を教へたりしようとしても、男の子はてんで、興味を持たず、唯女の子だけが、少し面白さうにして居るだけでした。手技手工の如きも駄目、唯、好きなのは、お話を聞くこと、自由書を書くことだけでした。それで、私は成る可く子供の嫌な様なものを避けて、紙を少し使ひ

過ぎると云はれるかも知れぬと考へながらも、自由書を多くやらせることにしました。處が困つたことには、先生大書いて、先生鳥書いて、先生馬の驅けてるところ書いて、などと略書の要求には困りました。が兎も角、そうして數日を過しましたら、園長なる設立者が廻はつて来て曰く、「何うも何の先生も新任の人は紙を使ひ過ぎて困る。腕のない保母は子供に繪ばかり書かして居る」とのことでした。さうかうして居る中に二三週は過ぎて、今は早一ヶ月にならうとして居ますが、相變らず、幼稚園の日々は喧嘩と打擲との修羅場で、子供は一向静まりません。今では喧嘩の仲裁の奔命にも疲れて、少し位の事は唯見届けて居るだけにして、放つて置きます。出來た結果を、兎や角と心配して仲裁などするよりは、モツト根本的に争奪、打擲の源泉を枯らして仕舞ひたいと思つて、能く／＼觀察して見ると、七つになる男の子で、體力もある伶俐な亂暴もの、之が何時も喧嘩の發頭人でした。家は園長の親戚に當る土地での資産家で、其家の家作に住つて居る小商人の子供三人を取り卷きにして横行して居るのでした。資産家の子供をAち

やんとしませう。此Aちゃんはabcの取巻に、主権者の如く立てられて、少し氣に入らぬものは、三人の取巻をけし掛けて苛めるのでした。日々の修羅場は皆其結果でした。今此Aを如何に處直せんかと云ふことが私の宿題です。先生何うしたら此Aちゃんをおとなしい善い子供にすることが出来るでせうか。

次に、問題なのは園長の干涉です。或時、私はAちゃんが餘り横暴であつたので、Aちゃんを叱りました。そして、Aちゃんを連れて来て、迫害した子供に『ご免ネ』を云はせました。是が、丁度園長なる人の来て居た時でした。私は善いことをした。私が公平無私に、何の子供をも、正義と教育愛とで、世話して居ると云ふことを見て貰ふことが出来た。定めし園長も、心の中で満足を感じて居て呉れるだらうと、内心已惚れて居たのでしたが、所が結果は、大違ひで、終業後私は園長に大に叱られました。園長曰く、貴女の行り方は私の主義に反する。彼の様な場合にAちゃんにあやまらせるのは、Aちゃんを大勢の子供の前で恥辱することである。人を恥辱することは罪惡である。そんな

下手な保育法では行かぬ。と云ふ譯で大分長い問答説教でしたが、私には解せませんでした。園長は某専門學校を出て居るとか云ふ事業家で、大した資産家ではない迄も、資産家の流れを汲んで居る我儘一鐵の頑固ものゝ様です。

或時は又、遊戯室の玩具の破片が散亂して居ると云ふては始末が悪ういと叱られ、或時は玄關口の掃除が悪ういと叱られました。来る度に便所の中まで検査して、何時も掃除の悪ういのは叱られて居ります。

或時は、又、折り紙、半紙、豆、ヒゴの費消高が多過ぎると叱られ、玩具の請求に對しては贅澤だと云つて断られました。是等は何う云ふ様にしたらよいものでせう。今日は篤と先生の御意見を伺つて参りたく存じます」と云ふことでした。人は現金であり、正直なもので、私の指導下に在つて、保育法の講義を聞いて居つた時には、話が少し平凡なことになると、碌に講義を聞かうともせず、初夏の微風に後れ毛なぶらせながら、いゝ心持ちさうに舟さへ漕いで居た人が、今は極めて、眞面目で、一生の浮沈、此一事にありと云つた形、相見て、大に笑つた事でしたが、併

し、眞剣な此新任保母の奮闘振りには私も、すつかり、感心させられました。大體に於て、誤りの無い保育方針を立て、枝葉の末節に拘泥せず、事の根幹に對して、全力を傾注しようとして居る處は、大に我意を得たりと云ふ所で、私は感服して仕舞ひました。夫れで、今後のAちゃんの處置に對してはAちゃんの長所を伸ばしてやることを主として其得意の活動を満足せしめ、其點に就いて、先生の優越を感得せしむると共に、其恩愛を感ぜしむる様計劃す可きことを話したことでした。斯くして、Aちゃんを安全に先生の手の中に擔り子にすることが出来れば、次にはAちゃんを善良な仁者たらしむることも、決して難事でないことを話しました。

次に園長の干渉問題に就いては困りました。唯、常識的に妙な「悟り」を開いて、云はゞ辭見、我意と云ふ様なものを振り廻はす人に對して、眞面目な議論は効き目もなければ役にも立たず、然りとて、然様然らば、で詰らぬ意見に御追従ばかりして居ては、此方の腹の虫は兎に角、善良な子供が可哀想でならず、と云つて、一々楯突いて居たの

では結局は此方の首の問題になるかも知れず、是は中々困難な問題です。保育法の先生も、是を解決することは容易ではありません。併し、考へて見れば園長の干渉を如何に處置す可きかと云ふ問題は保育方法の講義の中にはありませんでした。是は保育法の對象として取扱ふ可きものではないので、此點に關して、新任保母が行き詰りを感ずるのは誠に尤な事でした。問題は處世上の大きな問題で、實踐道德上の難問でした。換言すれば人格と人格との對立の問題でした。新任保母の人格が夫れ、園長の人格が夫れ、つまりは大なる人格に小なる人格が包まれて仕舞ふ問題です。園長の我儘・横暴が烈しくて、資本家たる権力迄も使用して此方を虐げて掛るのでは、最早助かる術もありませんから、其時はあきらめて、引退がるより外仕方がないでせう。併し、其様な人を若し此方の大人格で、感化するところが出来るとしたら、頗る愉快なばかりでなく、社會に對し、世間に對し、功德の事ですから、直して遣りたいものです。夫れには第一に、子供の世話に就いては、巨細共に充分に氣を付けて、子供の世話は此人に任かして置けば、

心配は要らぬと云ふ安心を起させることゝ、も一つは父兄に充分に信用を得ることである。彼の先生は公平であり、

親切であり、注意周到であり、何處に抜目もないと云ふことが徹底的に父兄の信用となれば、園長は最早保育上に就いて、何等の心配もしなくなり、従つて、つまらぬ干渉はなくなるでせう。保育上の主義とか、方針とか云ふことに就いては間違つて居ない限りは、聞き流して置けばよいので時には、寸鐵人を刺す底の簡単な言葉で、之を批評するもよいでせう。時には、ソクラテスの問答法に倣つて、園長の意見の矛盾を園長が自覺する様質問を提出して見るのも善いでせう。尤も、此場合に於て、園長が其矛盾を自覺した様だと思つたら、質問は餘り追窮してはいけません。斯様にして行く中に、段々に保母の人格の大にして高きもののあるのに氣付いて、遂には敬服する様になるでせう。と云ふ様な意味を話しました。

此人は東京の某高等女學校を出た人ですが、確固な信仰を持ち、伶俐で、器用で、子供にも父兄にも充分、信用される値打のある人でした。多分、其幼稚園は適當に料理さ

れ經營されて行くことゝ思つて居ます。

#### B 新任保母の告白

次にBと云ふ保母は或る可なり大きな町の中央にある一私立幼稚園で子供の数が八十人ばかりの處へ参りました。先任の保母が二人あり、そして、園長の妻君が一切の采配を揮つて居る處でした。其告白は左の通りでした。

私は赴任すると直に、大きい子供の一組三十人ばかりを受持つことになりました。子供は入園したてで、先生の私、同様の新米で、爲ることなすこと、面食ふことばかりで、閉口して居ります。子供はまだ中々附添の手を離れないものが数人あります。が併し、大體に於て、保育上には大した問題はありません。樂器も御蔭様で、人並には出来るので仕事其ものは思つた程、困難はありませんが、困つたことは園長代理の奥さんの八釜しいことです。部屋の掃除や餐頓の仕方の八釜しいことは先づよいとして、便所の掃除、庭の隅々まで、附きまといつての指圖振りは、ほと／＼閉口します。云はれずとも、相當に掃除の仕方は心得て居る積りですが、ヤレ夫れでは雑巾のゆすぎ方が足り

ない。帯を其様に使つては早く痛む。そんな掃き方では塵が立ち上つて舞つてばかり居る。水をそんなに使つては水道の料金が嵩む、と云ふ様に夫れは、大變な干渉振ります。夫れもママ善いとして、モット私共のいやになることに「腰元女中」であるかの様に、私共を奥さん自身の用事に使用することです。ヤレお天氣が良いから夜具をほして下さいとか引き出しを整理するから手傳つてとか、石鹼を採つて下さいとか、ハンケチを洗濯してとか、有らゆる用事に私共を使用するのです。それで、奥さんの云はくです。女中は僅か十圓で朝起きるから寝る迄働く。何十圓の月給を拂つて、五時間や六時間働いて貰つたのでは、逆も算盤にならぬと云ふことです。萬事が斯う云ふ遣り方ですから使ひ物でも持つて来る家の子供は、奥さんの歓迎することが非常なもので、見て居ても齒の浮く様な世辭を云つて居ますが、然もない家の子供は頓と見向きもしません。或は子供の顔が汚れて居ると云つて、バケツに湯をとらせて、奥さん自身子供達の顔を拭いて遣つて居ましたが、例の特別待遇の二三の子供と自分自身の子供とだけは、必ずよく

くゆすぎ立ての手拭で拭いて遣りますが、後の子供達は碌にゆすぎもしない手拭で、一時に數人も續けざまに拭いて仕舞ふのです。若し傳染病でもあつたら、早速、其傳播をたすける様な行り方です。尤も此奥さんは高等小學校を出た限りで、無論、保姆の資格も何もない人です。斯様な譯で奥さんの行り方と干渉振りに先任の人達も閉口して居る處でした。と云ふ譯でした。私立の幼稚園にはともすれば此様な所があるもので、是に類する愚痴話を私は度々聞かれて居ますから別に驚きはしません、教育の仕事の進歩して居る今時分にも、斯様な事實が、然も、帝都を去ること遠からぬ立派な都市の中央にあるのを思つて、つく／＼と教育内容を監督する機關の今少し整備せんことを祈らずには居られません。

元來、保姆の資格もない様なものが、假令、代理とは云へ、幼稚園の仕事に口を出すと云ふことは遠慮す可きであります。私立の幼稚園には兎角、之に類することが行はれて居るところがまだ外に幾等もある様ですが、何とか改める工夫はないものでせうか、誠に齒がゆい様な感じがしま

す。嘗て、私の所に私立幼稚園設立の相談に來た人がありました。色々話して居る中に、誰が實際經營の任に當るかと云ふことを聞いて見ると自分の家内に行らせる積りだと言ふ。奥さんの資格はと聞くと何もないと云ふ。失禮ですがお教育の程度は？ と聞くと小學校限りだと云ふ。そこで、私は小學校長である其人に、嚴然として云つた。貴殿は多年教育に従事せられて教育事業の尊いことを存じないのか、教育の檢定と云ふものが伊達だてのものと思はれるのか

人の教育を司る可き資格さへ無くして教育事業を經營することは、其は教育事業冒瀆では無いか。若し貴殿が眞面目な考へで幼稚園經營をなさる御積りならば先づ妻君の保姆資格を採られることが先決問題でせうと云つて違つたことがありますが、此老小學校長に類する様な營利一點張りの幼稚園も随分、世間には尠くないと見えます。昭和の今日然りとは呆された事と云はねばなりません。

## フレイベル誕生百五十年記念講演會

時 日 四月二十三日(土) 午後一時半  
場 所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園  
講 演 フレイベルの生れた家

フレイベルに就て

倉 橋 惣 三 君

ソフアヤ・アラベラ・アルウケン君

## 日本幼稚園協會

(詳細は巻頭第一頁廣告をごらん下さい)